

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス事業所ブリエ+文字			
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 5日		～	令和8年 1月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数)	10名
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 23日		～	令和8年 1月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・看護師、理学療法士、作業療法士、社会福祉主事、保育士などそれぞれの専門性を備えたスタッフがおり、連携して支援を行っている。	・個々の利用者に対し、保育士、看護師、理学療法士、作業療法士、それぞれの専門職が連携し、発達や障害を考慮した支援プログラムを立案している。 ・それぞれの専門分野の知識や技術を活用し、職員に対して研修を実施している。	・専門職が連携して支援に取り組み、発達評価や立案した計画を保護者にも分かりやすく伝えていく。
2	・主治医と連携を図ることで、医療的ケアとリハビリテーションを実施している。	・経管栄養等の医療的ケアを実施し、家族のレスパイト支援を行っている。 ・理学療法士、作業療法士によるリハビリテーションを個別対応にて実施している。	・今後も様々な発達や障害のお子様のケアに対応し、本人支援と合わせて、家族支援も行っていけるよう、主治医や各関係機関との連携に努めていく。
3	・多機能型の施設のため、活動に合った場所や部屋で落ち着いて過ごしたり、存分に活動を楽しむことができる。また、幅広く交流する機会を設けることができる。 ・児童発達支援→放課後等デイサービス→生活介護と、切れ目のないサービス提供が可能である。	・他事業所（放課後等デイサービス・生活介護等）の利用者と一緒に行事に参加したり、普段の生活の中で交流する機会を提供することができる。（夏祭り・ハロウィンパーティー・お店屋さんごっこ等）	・多機能型施設の館内外を広く活用し、安全面に考慮しながら、個々が落ち着いて快適に過ごせるように取り組んでいく。 ・異年齢交流を図ることで、自己肯定感を育てていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や障害の無い子供と活動する機会がほとんどなかった。	・コロナ感染症の影響で交流や情報交換が不十分となった。 ・個人情報保護の観点から、交流が困難な状況である。	・現在、様々な感染症が流行っている為、状況を見ながら可能な範囲で交流を図り、情報共有や相互理解に努めていく。
2	・第三者による外部評価が実施されていない。	・外部による評価を実施していないため、自事業所での評価のみになっており、客観的な評価に欠ける。	・第三者による外部評価は実施していないが、事業所の自己評価や法人監査を実施し、それをもとに結果を検討し、業務改善に努めている。
3	・今年度は保護者様向けの研修会を開催することができなかった。	・研修会の日時を秋冬に設定したが、感染症が流行る時期だったため、開催が困難だった。	・開催日時を早めに設定し、なるべく沢山の方に参加していただけるように工夫していきたい。